

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 3 月 23 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・特定研究員
氏名	澤田晶子

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)
鹿児島県熊毛郡屋久島町
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)
屋久島生息地研修
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 3 月 11 日 ~ 平成 27 年 3 月 14 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
特になし
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>PWS プログラムが実施する生息地研修の一環として、兼子明久氏・橋本直子氏・山中淳史氏(以上、霊長類研究所・技術職員)と鈴木崇文氏(幸島観察所・技術職員)の4名が屋久島を訪問することになった。報告者は、その案内役として研修に同行した。報告者にとっても「生息地研修」というかたちで屋久島を訪問するのは初めての経験であった。生息密度の違いこそあれ、屋久島ではどの地域にも生息している。そこで今回の研修では、西部林道に重点を置きつつ、島内を万遍なく見ていただけるようなスケジュールを組んだ。</p> <p>■日程■ 2015/03/11 屋久島入り、空港から永田まで時計回りで移動 2015/03/12 西部林道での観察、町役場でヒアリング、ヤクスギランド訪問 2015/03/13 西部林道での観察、地元の祭り(二十三夜)に参加 2015/03/14 白谷雲水峡トレッキング、帰所</p> <p>1 日目、屋久島空港から永田まで、あえて逆回り(時計回り)ルートで移動した。島の4分の3をカバーするこのルートは移動に時間がかかるため、通常ならまず選択しないが、屋久島の集落を効率よく紹介することができる。移動途中、屋久島の特徴的な地形・地質を体感していただくため、大川の滝や千尋の滝を訪れた。屋久島は、海底の堆積岩に花崗岩質のマグマが貫入してできた島である。大川の滝などを形成するホルンフェルスは、花崗岩と接触した堆積岩が熱変性したものである。西部林道を通る際、ニホンザルやシカを観察する機会に恵まれた。サルを追って森に入るのは翌日以降ということで、この日は林道上からの観察に留めた。夕食後は、屋久島の自然・歴史・社会に関する講義をおこなった。</p> <p>2 日目の午前中は、西部林道でサルの観察をおこなった。サルの採食内容は、ヒメユズリハ成熟葉・タブノキ花/シュート、クスノキ新葉、ハゼノキ花/新葉などが中心であった。新葉が芽吹くこの時期、サルの採食樹の下にシカが群れる光景がしばしばみられる。この日も、樹上から景気よくタブノキの花やシュートの食べ残しをばらまくサルの下には、次から次へとシカが現れた。</p> <p>午後からは、屋久島町役場を訪問した。屋久島生息地研修に関する事前の打ち合わせで、現地における電気柵の導入状況について知りたいとの要望があった。そこで、湯本先生を通じて、屋久島町役場に連絡を取り、ヒアリングの場を設けてもらうことになっていた。残念ながら、報告者は所用のため同席することができなかったが、いろいろと貴重な情報が得られたと聞いている。</p> <p>ヒアリング後は、ヤクスギランドを訪れた。安房からヤクスギランドへ移動する道中は、よくサルが目撃される場所である。このあたりに出没するサルは観光客による餌付けが進んでしまっている。我々が遭遇した群れも、車に寄ってくるどころか、ボンネットに飛び乗り餌を要求してくる始末であった。うっか</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

り食べ物を持ったまま車外に出れば襲われてしまうだろう。そう危惧するほど、サルの方からどんどん距離をつめてくる。サルに餌をやらないよう注意喚起する看板の設置が一刻もはやく望まれる。



千尋の滝



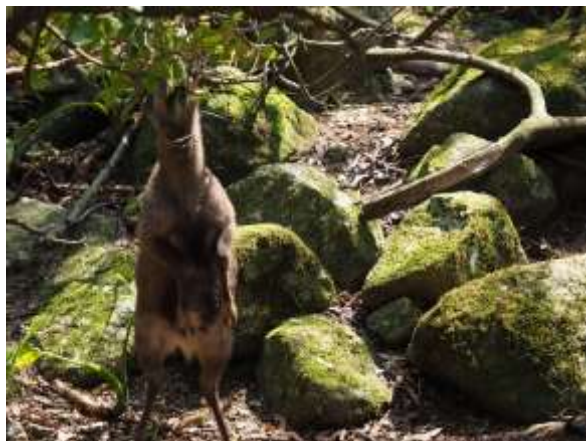
日のあたる樹上でグルーミング



樹上からサルの食べ残しが降ってくる



それに群がるシカ



サルの重みで下がった枝も絶好の採食ポイント



葉を追って沢にも入る

3 日目は、本格的な調査を体験してもらうべく、早朝に宿を出発した。林道上で発見した群れを追いつつ、海岸近くまで移動した。その後、また林道に戻ってきたところ、半山1号橋付近でサルに食べものを与えている観光客に遭遇した。その場に駆けつけたものの、すでに一部はサルによって食べられてしまっていた。このとき与えられていたのは、クラッカーとチョコレートのようなものだった。サルへの餌付けそのものが禁止されるべき行為ではあるが、中でもチョコレートのように動物にとって害となる食べものを与えるような人が未だに存在するのはゆゆしき問題である。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



クリームを挟んだクラッカー



サルが吐き出したチョコレート

夜、永田集落の二十三夜に参加した。途絶えてしまった伝統的な行事を、永田に復活・定着させようと昨年度から有志の皆さんが尽力されているとのこと。そこで披露された「亀女踊り」は男性のみに受け継がれる郷土芸能で、中学校の授業の一環として教わるそうだ。調べてみたところ、永田以外の集落でも二十三夜祭は執り行われていた。おなじ二十三夜でも、永田はエンターテインメント性が高く、麦生や平内は儀式的要素が強いようだ。永田集落の住民 500 名弱のうち、約 100 名が参加した今年の二十三夜は、盛況のうちに終了した。



柴鐵生さんのスピーチ



ベテランの亀女踊り



若手による亀女踊り

気候にも運にも恵まれた今回の研修は、期間は 4 日と短かったものの、非常に充実したものとなった。特に、地元の人々と交流する機会を持つことができたのは収穫が大きい。技術職員の皆さんの人柄もあり、永田の人々にあっという間に受け入れられた。屋久島で研究する人間として、見習うべき姿勢であると強く感じた。多くのことを共に体験し、共有してくださった兼子氏・橋本氏・山中氏・鈴木氏には改め厚くお礼申し上げたい。

6. その他 (特記事項など)